

【5年生での「筆談」を取り入れた実践】

1 単元名 筆者と読者をつなぐ筆談リレーをしよう 教材文『森林のおくりもの』(東京書籍5年下)

2 「筆談」について

筆談は、これまで音声による対話を補助するために行われることが多かったと思います。今回、その筆談を説明的文章の読解に取り入れることにした理由は、以下のとおりです。

ア 筆談は、音声による対談とは異なり、2人もしくは3人で話し合ったことが文字として残る利点があります。文字として、児童が読み取ったことを表現させ、それを基に確かな読みへ導くことができると思えました。筆者が書いたものを一次教材とするなら、この筆談は二次教材として文章中の言葉に着目させるための手掛かりになり得ると思われま

イ 筆談は、個人による記述と違って、2人以上による対話の要素を含んでいます。筆談を行う中で、児童は自分と相手が読み取ったことを比べながら、お互いが話し合うことができます。隣同士での対話と同じように、相手に質問をしたり、自分の読み取りを伝えたり、お互いの考えをまとめたりすることができるのです。

ウ 筆談は、読み手としての児童同士の対話に限らず、ときには筆者の文章に登場する動物や人物になりきって行うこともできます。また、説明的文章について筆者と読者の立場に立って筆談を行うことも可能です。

以上のことから、説明的文章の読解指導において筆談という言語活動を取り入れることにしました。指導に当たっては、題名や述べ方の工夫に気付かせて筆者の考えを読み取らせ、読者としての感想や意見をもたせるために、児童による筆談の場面を設定します。

以下のような学習場面で筆談を取り入れ、読解に生かすことにしました。

ア 読みの課題を作らせる場面での筆談

題名「森林のおくりもの」から書かれている内容を予想し、初めて本文を読んだ後にお互いの児童が読み取った内容を質問させることで、一人一人の読みの状況を把握します。

イ 内容を読み取らせ、述べ方の工夫に気付かせる場面での筆談

序論や本論における意味段落ごとの読解において、筆者の問いに対する内容の読み取りや対比や擬人化などの表現の工夫に気付かせるために筆談をさせます。筆談したことを基に、全体で文章中の言葉に着目した意見交換を行わせ

ウ 読者としての感想や意見をまとめさせる場面での筆談

結論における筆者の主張を読み取らせ、それに対する読者としての意見や感想をもたせるために筆談をさせます。それぞれが筆談したことを基に各自の感想や意見をもた

以上のことを通して、筆談を生かして読解力を高めていきたいと思

3 単元の目標

筆者の題名や述べ方の工夫を理解し、筆者の考えを読み取ったり、それに対する感想や意見をもったりすることができる。

4 単元の評価規準

ア 国語への関心・意欲・態度	イ 読む能力	ウ 書く能力
筆談をするために、内容や述べ方に関するキーワー	具体例を表す言葉に着目し内容を	書かれている事例に対して、初めて知ったことや分かった

ドを見付けようとしている。 自分の意見や感想を筆談 で書き表そうとしている。	要旨に関する言葉に着目 し、筆者の考えを読み取る。 述べ方の工夫を理解する。	ことについて筆談を行う。 筆者の考えや述べ方の工夫 について、感想や意見を書く。
--	--	--

5 単元における指導計画（全9時間）

時	学 習 活 動	指 導 と 支 援	評 価
1	・ 題名「森林のおくりもの」から内容を想像する。 ・ 全文を読んで「おくりもの」として書いてあることをおおまかに読み取る。	「おくりもの」に着目させ、それに対する児童の印象を発表させる。 「おくりもの」の内容について書かせ、読み取りの把握をする。	ウ -
2	・ 日本とヨーロッパの暮らしを対比させて読み取る。 ・ 序論の述べ方の工夫について、筆談をする。	「森林のめぐみ」に着目させ、日本人の木の暮らしを読み取らせる。 冒頭の対比による工夫に気付かせる。	ア - イ -
3	・ 木材の特性や用途を、一覧表にまとめる。 ・ 一覧表にまとめたものを基に筆談をする。	特性と用途の関連を読み取らせる。 一覧表を基に、初めて知ったことや感想について筆談させる。	イ - ウ -
4	・ 木材が長生きである証拠とその具体例について筆談をする。 ・ 筆談したものを提示して、具体例の述べ方の工夫について話し合う。	2つの証拠とその事例に着目させ、その関係について筆談させる。 「生きている」、「長生きです」の具体例の視点の違いに気付かせる。	ウ - イ -
5	・ 紙や火が森林の「おくりもの」である理由について筆談をする。 ・ 「紙や火のおくりもの」の意味を考える。	働きや必要性についての言葉に着目させて書かせる。 題名「おくりもの」の印象と比べる。	ウ - ア -
6	・ 川の水がなくなる理由について、絵図に書いて森林の働きを読み取る。 ・ 絵図を基に、森林の「おくりもの」について筆談する。	「わき水」、「大森林のおかげ」に着目させ、森林の地下構造を読み取らせる。 木材、紙、火などの「おくりもの」と森林の働きとの違いに気付かせる。	イ - ウ -
7	・ 森林の土がなくなる理由について話し合う。 ・ 仮定「もしも」の述べ方を使って、木がなかった場合について筆談する。	「森林のおかげ」に着目させ、森林の根の働きを読み取らせる。 仮定を表す表現を使って、木がない場合を想定して書かせる。	イ - ウ -
8	・ 毎年、稲作ができる理由を読み取る。 ・ 序論、本論における題名「森林のおくりもの」の理由について筆談する。	「土」「養分」に着目させる。 「おくりもの」に着目させ、筆者の題名における工夫に気付かせる。	イ - イ -
9	・ 結論において、森林が誰から誰への「おくりもの」かを読み取る。 ・ 筆者の強い主張の理由について筆談する。	「遺産」に着目させ、過去から未来へ受け継がれることを読み取らせる。 文章中の言葉に着目した筆談をさせ、筆者の主張を読み深めさせる。	イ - ウ -

6 本時の目標

森林のおくりものが祖先からのかけがえのない遺産であることを読み取り，筆者の考えに対する自分の考えを筆談で書くことができる。

7 授業の実際（本時9 / 9における筆談を取り入れた場面の抜粋）

本時の筆談は，筆者の結論の述べ方について読み取らせるために行いました。文末表現を工夫している筆者の意図を読み取らせ，児童の意見を筆談の中で書かせます。

教師の発問と児童の反応	指導と支援
<p>T： 結論で，筆者が一番，言いたいところは，どの文だと思いますか。</p> <p>C： 「緑豊かな国土に生まれたことに感謝しなければなりません」の文だと思います。</p> <p>C： 「森林を育てる仕事のすばらしさ，ととさを考えなければなりません」の文です。</p> <p>T： では，なぜ，それが筆者が主張したい文だと分かりましたか。</p> <p>C： 文末が「～しなければなりません」，「考えなければなりません」と書いてあるからです。 ～中略～</p> <p>T： 筆者は，なぜ，最後にこのような主張をしたのでしょうか。その理由について，隣同士で筆談をしてみましょう。</p>	<div data-bbox="778 510 1157 1025" data-label="Image"> <p>筆者（富山 和子さん）が わたくしは、緑豊かな国土に生まれたこと の幸せに感謝しなければなりません。 森林を育てる仕事のすばらしさ、ととさを 考えなければなりません。 最後に強く主張するのは、なぜですか。</p> <p>筆者の考え 主張 しなければなりません。 考えなければなりません。 最後に強く主張するのは、なぜですか。</p> </div> <div data-bbox="1165 526 1436 851" data-label="Text"> <p>文末表現の工夫に着目させて，筆者の考えが書かれている文を見付けさせ，それが筆者の主張であることに気付かせました。</p> </div> <div data-bbox="1157 862 1316 996" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="766 1108 1212 1444" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="1228 1008 1436 1422" data-label="Text"> <p>1枚のワークシートを交互に渡しながら筆談させました。相手の筆談内容を見て，もう一人の児童は次に書くことを考えます。</p> </div>
<p><上下2段の筆談用ワークシート></p>	<p><隣同士での筆談の様子></p>
<p>資料1 隣同士 による筆談</p>	
<p>C1： どうして，緑豊かな国土に生まれたことの幸せに感謝しなければいけないのかな。</p> <p>C2： 「世界では砂漠が広がっていて，おびただしい人たちがうえ死んでいきます」と教科書に書いてあるよ。だから，私たちは，先祖が送ってくれたかけがえのない遺産があるから，感謝しなければいけないと思うよ。では，なぜ最後になって書いたんだろう。</p> <p>C1： 一番大切なことだからだと思うよ。これからも，こういうふうに緑豊かなところにしよと思うよ。でも最後にもう1つ，森林を育てる仕事のすばらしさを考えなければならぬと思うよ。</p>	
<p>T： 教科書に書いてある言葉を理由に使っていて，すばらしいね。</p>	<div data-bbox="758 1904 909 2027" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="965 1915 1420 2027" data-label="Text"> <p>文章の言葉に着目した筆談を賞賛することで，他の児童のモデルにすることを意図しました。</p> </div>

資料2 隣同士 による筆談

- C 3 : なぜ、最後に筆者は強く主張するのか。
- C 4 : 大昔の人たちが植えついできたかけがえのない遺産だからだと思うよ。
- C 3 : 大昔の人に今、森林があることを感謝して現代の私たちが同じように子孫に森林をおくるから、考えなければいけないと思うよ。どう思う。

T : 森林がだれからだれへのおくりものであるかという答えを使って書いている人もいますね。



本時の前半、全体で読み取ったことを生かして筆談ができていたので、これも紹介しよう。

資料3 隣同士 による筆談

- C 5 : 私は、なぜ、最後に主張を出したかという、昔の人たちが植えついでくれていたから、今度は、私たちが未来の人たちにおくる番だからと思うよ。さんは、どう思う？
- C 6 : ぼくもそう思う。今度は、ぼくたちが森林を守り未来の人たちにおくりものをしないといけないんだね。でも、なんでこれが主張なの。
- C 5 : たぶん、最後に絶対しなければならないことや、感謝しなければいけないことを伝えたかったからだと思うよ。
- C 6 : ぼくは、本論に森林のよさや木が生きていることなどを書いて、その意味を分かりやすくして最後に強く主張しているんだと思うよ。もし、森林を未来の人たちにおくらなかったらどうなるかな。
- C 5 : そうなったら、未来は森林がなくなって、都会になったり砂漠になったりするって思うよ。何を感謝しなければいけないの？
- C 6 : 人間にはなくてはならない森林を大昔の人たちが現代のぼくたちにおくってくれたからだと思うよ。まとめると、この世は森林が支えているんだと思うよ。

T : 感謝しなければいけない理由については筆談の中を書くことができますね。もう一つの考えなければいけない理由はなぜなのでしょうかね。

C 5とC 6の筆談のように、感謝しなければいけない理由について書いている児童が多かったので、筆者が主張の中で述べている、森林を守り育てる仕事について考えなければいけない理由についても筆談させよう。



資料4 隣同士 による筆談

- C 10 : なぜ、最後に感謝しなければなりませんと言っているのかな？
- C 11 : 他の国では、砂漠が広がっているからじゃないの。C 10くんは、どう思う？
- C 10 : ぼくも、そう思うよ。
- C 11 : なぜ、最後に考えなければいけないのですと言っているのかな。
- C 10 : それは、地球ではおびたしい人たちが飢え死んでいて、その地球の緑を守れということじゃないの。

C 10とC 11の筆談を生かして、最後に全体で筆者の理由について考えさせよう。



T： では、筆者はなぜ、最後に強く主張したのかについて、筆談してみ分かったことをリレー発表してみましょう。

C 7： なぜ、感謝しなければならないかという、それは大昔からの祖先の人たちからのかげえのない遺産（森林）だからだと考えました。

C 12： ぼくもC 7さんと一緒に、大昔の先祖たちが現代の私たちにおくってくれたかけがえのない遺産だから、感謝しなければいけないと思いました。

C 13： ぼくはC 7さんとC 12さんと少し違って、先祖の人たちに感謝しなければいけないと考えました。

T： 感謝しなければいけないのは、緑豊かな国に生まれたことと書いてあるけど、C 13さんはだれに感謝しなければいけないと言いましたか。

C 他： 先祖の人たち。

C 5： 昔の人たちが私たちにおくってくれたものだから、今度は私たちが未来の人たちにおくる番だと思いました。

C 3： 大昔の人に森林があることを感謝して現代の私たちが同じように子孫に森林をおくらなければいけないので、森林を育てることを考えなければいけないと思います。

T： 同じようにおくらなければいけないとC 3さんは言いましたよね。

C 14： 未来の人たちに、森林のよさを知ってもらうために考えなければならないと思います。

C 11： 私はC 7さんたちと違って、他の国では砂漠が広がっていて、日本は豊かな国土だから感謝しなければならないと思います。

C 10： C 11さんは他の国は砂漠が広がっているからと言いましたが、ぼくは違って地球ではおびただしい人たちが飢え死んでいて、その地球の緑を守るために考えなければいけないと思います。

T： C 10さんはおびただしい何がどうなっ

りレー発表とは、発言の最後に「～みなさん、どうでしょうか」と言うことで、意見をつなぎながら相互の考えの違いを明らかにする方法です。

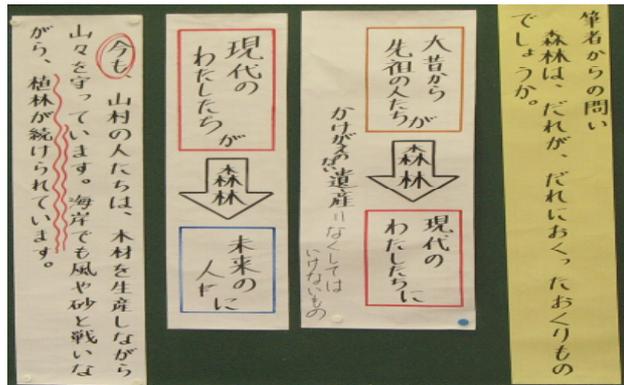
- ・ C 7の児童が3人組での筆談で、感謝しなければいけない理由について筆談をしていたので、その後の意見の変容を確認するために最初に指名しました。

- ・ C 12の児童は、隣同士での筆談の中で、感謝しなければいけない理由について書いていたので発言したと考えられますが、森林を守り育てることの必要性については読み取れていませんでした。

資料5 全体的な筆談の内容について

筆談の内容	人数(23人)
先祖に感謝する必要性について	16人
森林を育てる必要性について	3人
両方の必要性について	4人

- ・ 教材文の言葉に着目した発言を基に、筆者の考えに迫る発言に対しての共通理解を図り、前半の一斉指導で読み取った内容を想起させました。



<本時前半の板書>

- ・ 結論以外からの読み取りを基にした発言でしたので、前半の読み取りとの違いを確認するだけで追及しませんでした。

- ・ 結論の文章の中の言葉に着目した筆談ができていたので、机間指導の際に発言を促す支援として、着目した言葉に印を付けておきました。

- ・ C 11との筆談の中で、日本だけでなく世界や地球レベルでの森林を守り育てる必要性について、文章の中の言葉に着目して書けていたので、リレー発表の最後に指名して発言させました。

- ・ C 11の発言の中で「おびただしい人たち」につ

ていると言いましたか。

C他： おびたしい人たちが飢え苦しんで死んでいます。

T： 自分たち日本のことだけなら感謝しなければいけないけど、他の国，地球って考えたらたいへんなことが起っているんですね。だから，森林を守り育てることを考えなければいけないことが読み取れましたね。

いて，文章中の言葉に更に着目させるために発問を続けました。

筆談を基にした本時の読み取りのまとめを子ども自身にさせるべきでした。それによって，本時の筆談という言語活動に対する自己評価ができると思います。そのことについては，筆談を生かした読解についての提案で詳しく述べています。

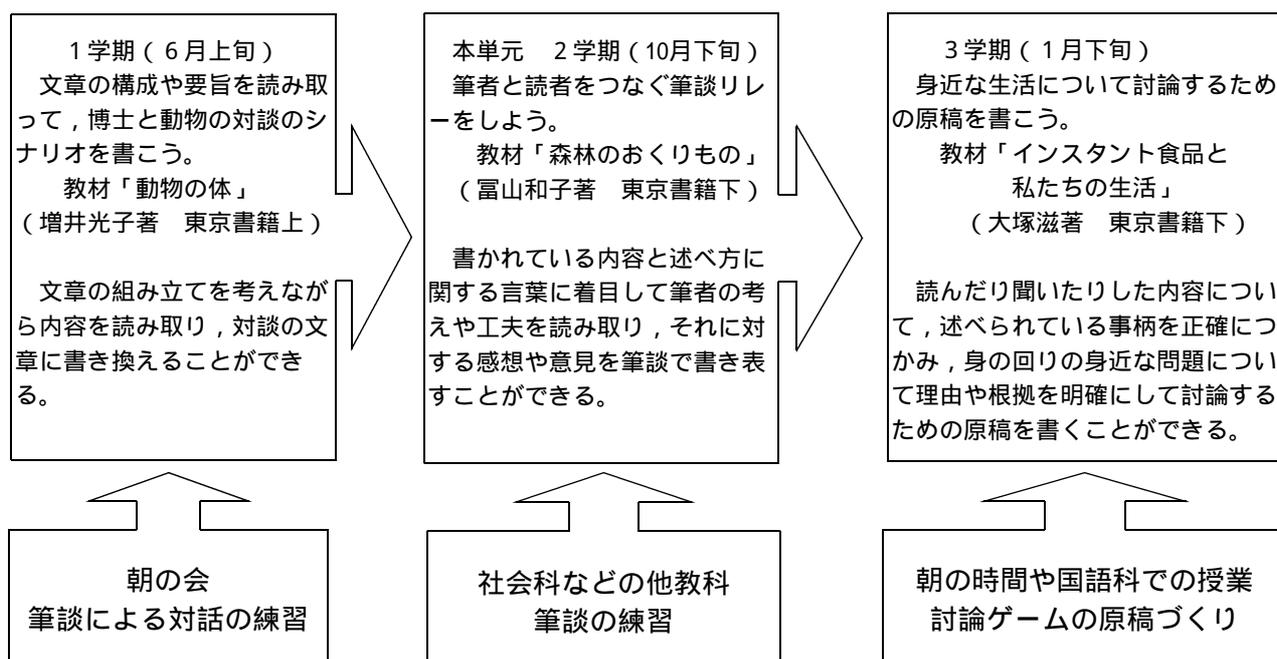
8 授業の考察

授業を終えて児童の筆談を振り返ってみると，本時における筆談までの全体での読み取りが教師主導であったために，児童の筆談の内容が同じ傾向に偏ってしまいました。また，筆談の問いが筆者の主張の理由についてであったために，児童は本文中の叙述に即した筆談を難しく感じたようです。

それを改善するために，前時の後半において結論部分における筆者の主張について筆談を行い，それを基に本時で話し合いを行う方法が考えられます。その筆談の問いとして「筆者が主張したいことは何ですか」を提示し，それぞれの児童が書いたことを比べながら筆者の考えや表現の工夫を読み取らせます。教材文を一次教材とするならば，それについて児童が筆談したものを二次教材として，その中の文言を全体で検討する際に教材文の言葉に着目する必然性が生まれてきます。その必然性を児童にもたせるには，児童同士の筆談を比較させる他に，教師が筆談に対して分かりにくい点を補うなどの方法が考えられます。

今回，筆談という言語活動を取り入れたことで児童の読み取りが文章として残り，二次教材として活用できることが分かりました。今後は，その二次教材としての筆談を生かして児童の読解力を高める指導方法を明らかにする必要があると思います。そのことは，筆談を生かした読解についての提案で述べることにします。

9 多様な言語活動を取り入れた年間指導計画(5年)



10 筆談を生かした読解についての提案

(1) 筆談についての事前指導

言語活動として筆談を取り入れるに当たって、児童らが筆談そのものに慣れておく必要があります。そこで、以下のような筆談における問答の仕方について指導を行いました。

レベル一 相手に問いかける

「さんは、どんなことがわかった？ 気づいてた？ 知っていた？
なぜだと聞こう？ どうして、そう考えたの？」

「と書いたらけど、まだ聞いていなかったの？」

レベル二 理由をつけて書かせる

「はく・わたしも、と書いてあったから、とだたわかったよ。
と書いてあったから、はく・わたしもそう思うよ。」

レベル三 相手とは違う理由や意見を書く。

「さん・くんは、とだと書いたらけど、それはちがうと思うよ。
だって、と書いてあるからだよ。」

レベル四 最初と比べて、自分の考えを書く。

「最初は、とだと書えていたけど、今はと違うよ。
前の時間は、とだと書けていたけど、今日は、とだと書えたよ。」

レベル五 最後に、自分の考えをまとめて書く

つまり、とということだね。まとめると、とだと書けるよ。
筆者が、私たちに伝えたかったこととは、とだと聞こうよ。それに對して、
はく・私は、とと書かせるよ。」

えんぴつ対談
達人への道

(2) 読み取りへのきっかけとしての筆談

説明的文章における単元指導の導入の段階で、教材文を一読した後に読み取ったことや疑問に思ったことについて隣同士で筆談をさせます。この筆談を基に、児童が読み取った内容を把握し、全体での読みの課題作りに生かすことができると考えます。今回の実践でも「森林のおくりもの」という題名についての認識と一読後の筆談を比較することで、児童が「森林のおくりもの」をどのように読み取っているかを把握することができました。その一方で、その最初の筆談を基に、一斉での読解指導の重点を明らかにすることができると考えます。以下に挙げたものは、教材文を一読し後の児童の筆談です。

- C 15: 森林は水や土を守っているんだね。森が一番、役に立っているのは何かな。

C 16: 森林がなかったら、土ははがれ、山はくずれ、日本列島は石だらけになっていたかもしれないから森林は役に立っていると思うよ。

C 15: 教科書に書いてあるとおり、火や木材、水がとれるのも森林のおかげだね。土も木が支えているんだね。森林は、どうやってできたかのかな？

C 16: 昔の人たちが木を植えてくれたと教科書に書いてあるよ。昔の人たちが木を植えてくれていなかったら、今の森林はなかったんだね。どうして、土地がやせたりしなかったのかな。

C 15: それは、森林が土を支えているからじゃないの。森林は人だけに役に立っているの？

C 16: それは、生き物たちや植物などにも役立っているんじゃないの？

C 15: まとめると、森林は日本全体を守っているんだね。

C 16: 森林は、人だけでなく植物などいろいろなものにとって役立っているんだね。

(3) 読みを確かめる筆談

今回の実践で教材文の本論における読み取りにおいて、授業の最初に児童に筆談をさせた場面がありました。その場面では児童の読み取りの違いが筆談に表れていて、それを比較させることで教材文の言葉に着目させることができました。そして、児童の筆談が文章の叙述に即したものであったために、その後の全体での読みの確かめにおいても文章中の言葉に着目した発言が見られました。そのときの児童の筆談は以下の通りです。

T： 紙や火が、なぜ「森林のおくりもの」と言えるのか、その訳について筆談をしよう。
C 15： 私は、どうして紙がおくりものかという、教科書の21段落に書いてあり、紙は人がものを調べるためなど社会生活に欠かせないものだと書いてあるからだと思うよ。C 16はどう思う？
C 16： そうだね、紙は社会生活で欠かせないものと分かったけど、火はどうか？
C 15： 火は、お湯をわかすときや、食事をするときに必要なだと24段落に書いてあるよ。もし、火がなかったら食事できないね。
C 16： 他にも明かりがなかったら暗い中で生活しなければいけないから火も大切なんだね。だから、木があったから今、火を使えるんだね。
C 15： そうだね、木があったから火が使えるんだね。だから火は森林のおくりものなんだね。紙の方にもどるけど、他に紙がおくりものというわけがあった？
C 16： それは、物を包むにも文字を記すにも紙が必要なんだね。
C 15： そうだね。それもおくりものだね。

(4) 読みのまとめとしての筆談

筆談を読みのおよむ段階で用いるには、その問いが大切であると考えられます。例えば、「筆者が書いた文章と題名は、読み手として納得できましたか」といった評価をさせたり、教師の仮想筆談を基に内容や文章構成について児童に意見交換をさせたりする方法が考えられます。さらに、評価と関連させて、筆談の問いを「今回の学習で、何ができるようになりましたか」とすることで、児童の読解の技能を自己評価することもできます。例えば、児童が書いた以下のような筆談を全体に提示し、教師の筆談と比べることで、他の児童の読み取る力を高めることが考えられます。

C 15： 私は、なぜ最後に主張をしたかという、昔の人たちが植えついでくれたいたから、今度は、私たちが未来の人たちにおくる番だからと思うよ。C 16さんは、どう思う？
C 16： ぼくもそう思うよ。今度は、ぼくたちが森林を守り未来の人たちにおくりものをしなければいけないんだね。でも、なんでこれが主張なの？
C 15： たぶん、最後に絶対しなければならないことや、感謝しなければいけないことを伝えなかったからだと思うよ。
C 16： ぼくは、本論にあった森林のよさや木が生きていることなどを書いて、その意味を分かりやすくして最後に強く主張しているんだと思うよ。もし、森林を未来の人たちにおくらなかつたらどうなるのかな？
C 15： そうなったら、未来は森林がなくなって、都会になったり砂漠になったりすると思うよ。何に感謝しなければいけないの？
C 16： 人間になくってはならない森林を大昔の人たちが現代のぼくたちにおくってくれたことだと思うよ。まとめると、この世は森林が支えているということだと思うよ。

以上のことから、筆談を取り入れ、児童の読み取る力を高めるためには、その言語活動に児童が十分に慣れておくことと、二次教材としての筆談を基に、説明的文章における表現や筆者の述べ方に着目させるための授業展開、教師の発問を工夫していくことが必要だと考えます。